

全力で突っ走れ！ 折乃笠部長

富士山歴訪の旅

2. 富士山一周徒歩の旅 2013年

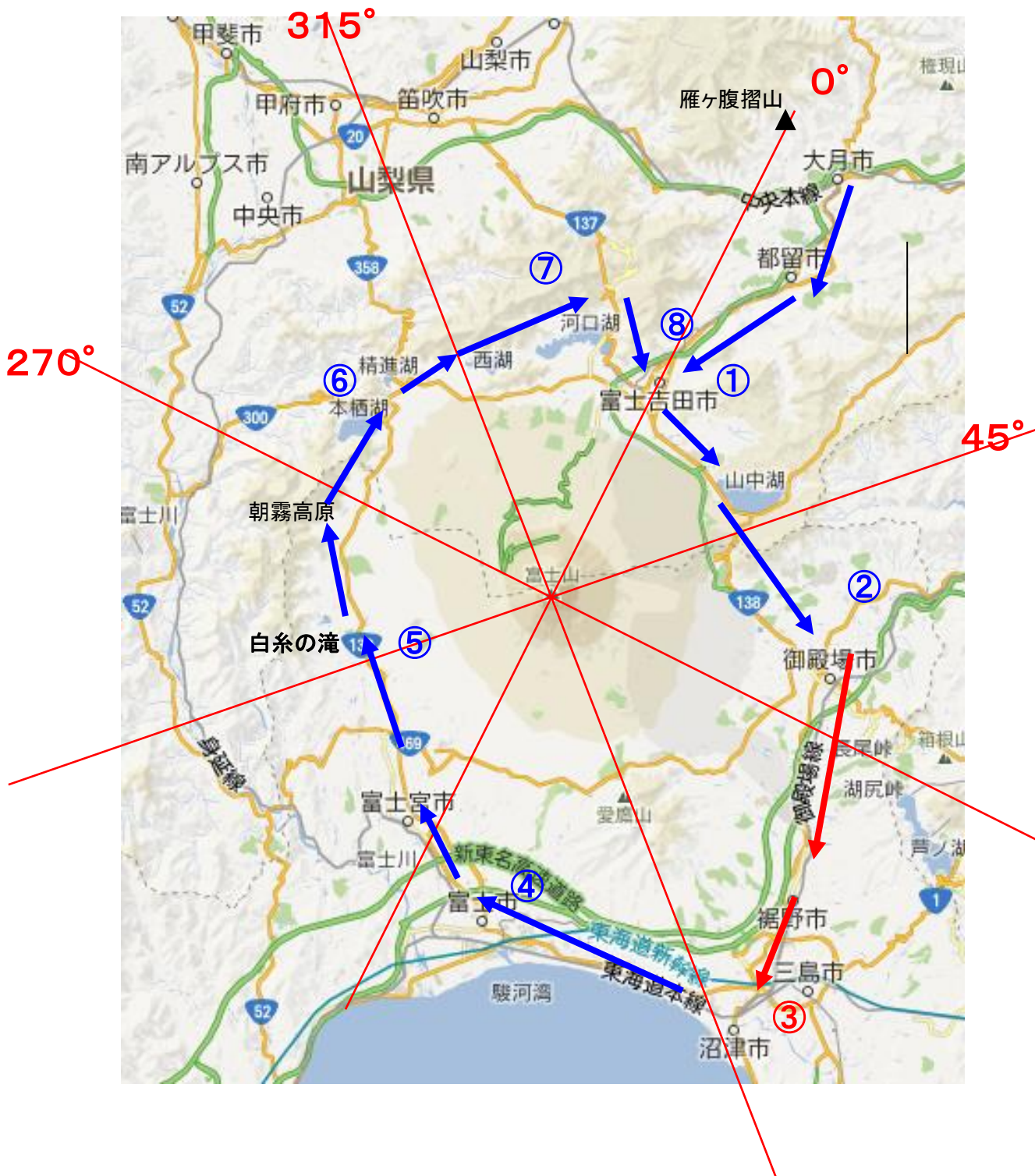
【5】御殿場～沼津 5月 3日(金)

目次

【1】 はじめに	
【2】 全行程図	
【3】 大月～富士吉田	3月 9日(土)
【4】 富士吉田～御殿場	4月27日(土)
【5】 御殿場～沼津	5月 3日(金)
【6】 沼津～富士	8月10日(金)
【7】 富士～白糸の滝	8月17日(金)
【8】 白糸の滝～本栖湖	10月 6日(日)
【9】 本栖湖～河口湖	10月13日(日)
【10】河口湖～富士山駅	10月19日(土)
【11】御殿場～富士宮浅間大社写真リベンジⅠ	12月 1日(日)
【12】富士宮浅間大社～本栖湖写真リベンジⅡ	12月 7日(土)
【13】沼津 芹沢光治良 朗読会	12月 7日(土)
【14】まとめ	

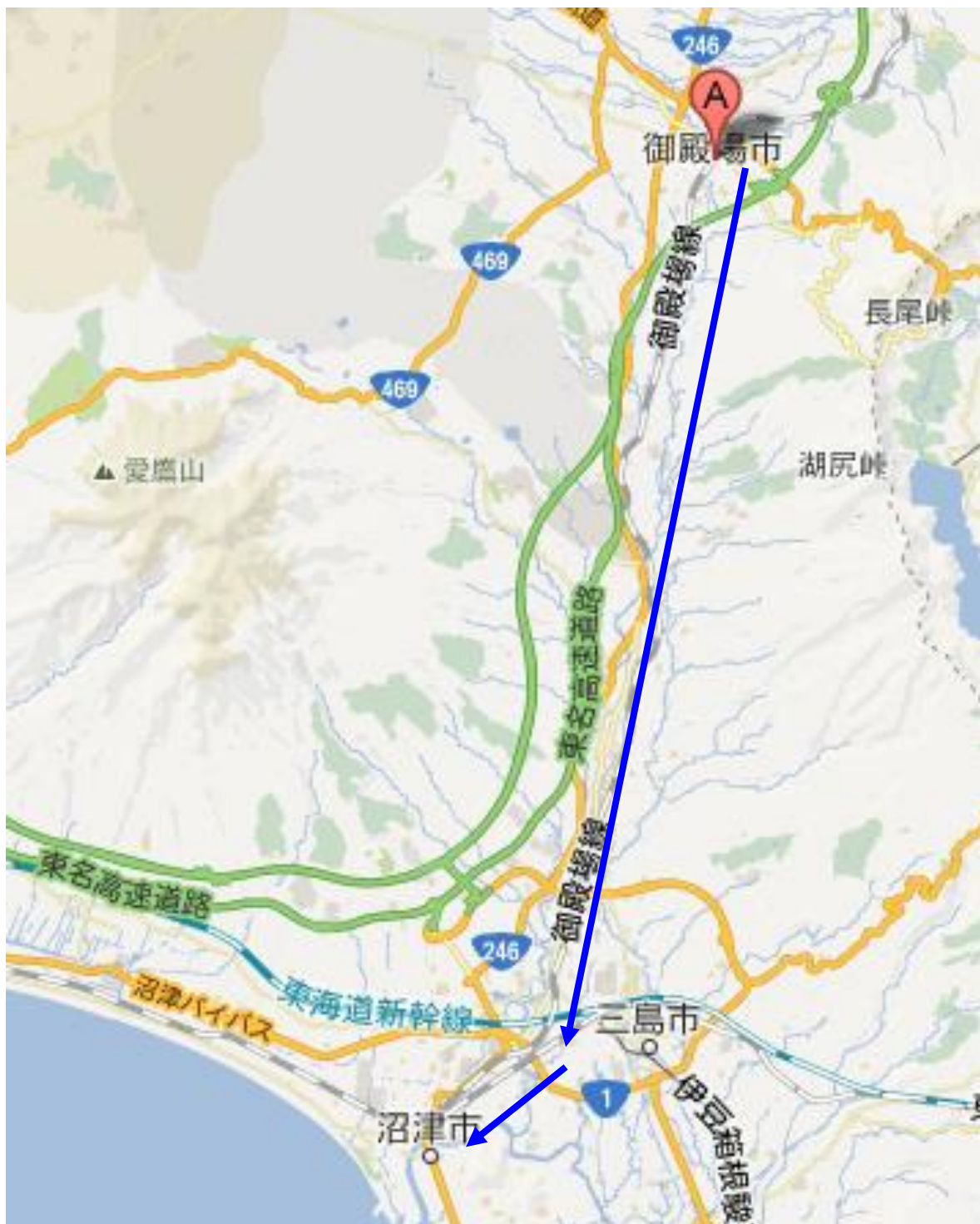
全行程図

- ① 大月～富士吉田
- ② 富士吉田～御殿場
- ③ 御殿場～沼津
- ④ 沼津～富士
- ⑤ 富士～白糸の滝
- ⑥ 白糸の滝～本栖湖
- ⑦ 本栖湖～河口湖
- ⑧ 河口湖～富士山駅



【5】御殿場～沼津

5月3日(金)



御殿場～沼津

5時35分

起床。

曇。外は少し寒い。

天気予報は晴。

たぶん晴れるだろう。GO！

今日は富士山徒歩の旅の三回目。

御殿場駅から裾野市を通り、沼津駅まで25kmの徒歩の旅。

19～27景/72景 90°～130°/360°を富士山の廻りを歩く。

大月駅から富士山駅までは富士急電車、御殿場駅までは富士急バスで行く。

4月30日深夜、ビッグニュースが飛び込んできた。

『富士山 世界遺産へ

「富士山」は、山頂の信仰遺跡群や登山道、富士五湖などを含む25件が「構成遺産」。

古来、信仰対象として日本人の精神性を形作り、葛飾北斎らの浮世絵の題材にもなった文化的価値を訴えた結果、「日本の象徴」としての価値を越え、世界的な存在となっていると、高い評価を得た。』

20年越しの悲願達成！

日本国、特に山梨県、静岡県は、ほんと喜んでいる。

「富士の眺めが日本一美しいまち」大月市も歓喜に沸いている。

自称・富士山研究家折笠公德も5月1日にこのビッグニュースを知り、手を叩いて祝杯をあげた。

(本当のところは、隣町の都留の有名ラーメン屋で一杯やって帰ってきた所で、既に出来上がっていたのだ。)

去年の“秀麗富嶽十二景をたずねて”と今年の“富士山一周徒歩の旅”で富士山を自分の五感と足で感じとっている自称・富士山研究家折笠公德の行動が世界に認められた。

と感じるぐらいうれしい。

今後も、日本のため、山梨県のため、大月市のため、本レポートの読者のため、そして自分のために富士山を研究していきたいと自称・富士山研究家折笠公德は思っている。

そんな盛り上がりの中、5月3日(金)、天候の心配はあったが、富士山一周徒歩の旅三回目、御殿場～沼津を強行したのである。

朝も十分朝食を取りエネルギー補給。

御飯大盛りとなめこと豆腐の味噌汁。

目玉焼きとウインナー焼。

海苔の佃煮で塩分補給。

6時15分

家内に大月駅まで送ってもらう。

6時22分

大月駅発車。

運転手さん、よろしくお願ひ致します。

雲が多いが青空が覗いている。



富士急電車の運転手さん

富士急には、だいぶ乗り慣れてきたが、改めて今日気がついた事がある。

途中、どの駅もローカル駅であるが、駅員さんがみな女性である。

それもみな美人である。(お歳は、それなりと思われるが)

電車が駅に着くとお客様や運転手に笑顔で御挨拶。

ほのぼのとあたたかい気持ちになった。

さて山岳鉄道、富士急電車は富士山に向けて快走。

まもなく、富士山駅である。



富士山に向けて快走
電車の前窓から

7時08分

富士山に迎えられて、富士吉田の富士山駅着。

4月27日に比べるとあたたかい。

念のためオーバーパンツは穿いている。

バスターミナルへ移動。

立派なきれいなバスターミナルである。



バスターミナルと富士急バス

7時18分

富士急バス御殿場駅行に乗る。

いすゞエルガ路線バス仕様。

乗客は小生含めて3人。

運転手さん、よろしくお願ひ致します。



富士急バスの運転手さん

いざ、御殿場に向けて出～発！

国道138号線を山中湖に向けて走る。

右手に富士山。

雲の間から覗いている。

だいぶ青空が広がってきた。



バスの車窓から富士山が見える

途中、138号線から左に曲がり忍野八海を經由。

もうけた気分。

春満開の森の中を高原バスは進んでいく。

なんと、森の中にファナックの巨大工場があった。

妙に黄色い建物と森の緑がマッチしていた。

7時43分

山中湖畔に入る。

今日は観光客が多い。

おっとカバちゃんが二匹、おじさんに体を洗ってもらっていた。

8時03分

籠坂峠を越え、須走に。

乗客も20人近くなってきた。

8時25分 標高 460m

御殿場駅着。時刻表とおり。

オーバーパンツを脱いで、荷物のチェックをして準備万端。

気合十分、いつでもOKですよ。



御殿場駅前広場

8時35分

沼津駅に向けて出発～！

まずは県道394号で裾野を目指す。

8時40分

真っ赤できれいな鳥居の浅間神社。



赤と空色のコントラストがきれい

本日最初のポイント

19景/72景(90° /360°)

富士山は完全に雲の中。

8時55分

富士山は見えませんが、日が差していてあたたかい。

箱根の山はきれいに見える。



19景/72景(90° /360°)

9時02分

東名高速の下をくぐる。

田んぼでカエルが鳴いている。

季節的に早くないかい？



東名高速との出会い

9時17分

高原を高原列車が行く。

御殿場線、良いですねえ。



高原列車が行くよ～♪

9時25分

南御殿場駅通過。

20景/72景(95° /360°)

富士のお姿は無く。

9時37分

県道394号を快調に進んでいる。

ほかほか陽気で気持ちが良い。

黄色い菜の花が咲いている。

うまそう～ もとい きれい～。



20景/72景(95° /360°)



菜の花畑に～ 入日薄れ～♪

9時44分

高岡駅前商店街を通過。

これが商店街？大月の方がにぎやかかな。

21景/72景(100° /360°)



21景/72景(100° /360°)

10時00分

大坂地区通過。

スイスみたいな光景。

思わず「ヨレヨレヨレ～ ヨレイティ～」



スイスのような大坂

こいのぼりの向こうに富士は見えず。

富士より高い、こいのぼり～♪ と来たもんだ

22景/72景(105° /360°)



22景/72景(105° /360°)

10時18分

おっ 富士山のすそのが見える。

もうすぐ裾野市に入る。

10時22分

御殿場市神山消防団事務所。

シャッターの紅富士、すばらしい。



シャッターの紅富士

10時29分

裾野市に入った。



裾野市入口

ここで裾野市を紹介。

裾野市紹介

『裾野市は、静岡県東部の市である。

沼津市及び三島市のベッドタウンとして、
また先端技術の研究都市として発展している。

その名のとおり、富士山をはじめとする3つの大型火山の裾野に
位置する町である。

この裾野の南北に黄瀬川が流れ、その周囲の平地に市街地が広がる。

製造業が盛んで一人あたりの製造物出荷額は県下トップクラスを誇る。

トヨタ自動車・東富士研究所

矢崎総業・本社機能

キヤノン・富士裾野リサーチパーク

トヨタ自動車東日本・東富士総合センター・東富士工場・須山工場

三菱アルミニウム・富士製作所

アルバック・富士裾野工場・半導体技術研究所

ヤクルト本社・富士裾野工場

東海ゴム工業・富士裾野製作所

トヨタ紡織・富士裾野工場』

10時37分

岩波駅通過。

富士急バスと御殿場線電車のコラボ。



23景/72景(110° /360°)

23景/72景(110° /360°)

富士さん、そろそろ起きてね。

10時40分

矢崎総業 本社工場通過。

以前、軸重監視システムの開発でおじゃました様な？



矢崎総業 本社工場

10時45分

国道246と合流。

愛鷹山のすそのがきれいに流れている。

11時17分

再び県道394号。

100円オレンジショップでトイレ休憩(小)。

そういえば出発して3時間、ノンストップだった。



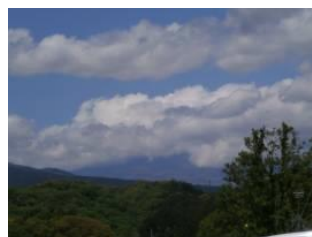
伸び伸び国道246

11時25分

単調な街並みの中、たんたんと歩いている。

24景/72景(115° /360°)

雲はあつく、流れていない。



24景/72景(115° /360°)

11時37分 標高129m

裾野市役所通過。

立派。さすが大企業があるため大税金なのだろう。



立派な裾野市役所

沼津駅まで10km。

ここまで15km走行。

5km/hの予定通りの良いペース。

11時54分

ひたすら歩いている。

真正面に伊豆半島の山々が見えている。



正面に伊豆半島の山々

12時08分

長泉(ながいずみ)町に入る。

ここで昼食を取る。

ラーメン屋幸喜に入る。

名物あぶらそばと餃子を頼む。

あぶらそばは、太麺をあぶらで炒めてチャーシューとのりをちりばめてあり、ラー油と”す”で食べる。

味が単純であり旨い。

餃子は裾野名物。



”す”で体の浄化作用開始。元気百倍。

12時30分

沼津に向けて出発～！

12時33分

長泉なめり駅通過。

おもしろい名前。

なめり=納米里 たぶん素人は読めないなのでひらがなにしたのだと思う。



25景/72景(120° /360°)

25景/72景(120° /360°)

愛かわらず、NG。

12時50分

県道394号は続く。

歩道橋の上から富士を望む。

26景/72景(125° /360°)

姿なきかな。



26景/72景(125° /360°)

13時10分

ついに東海道新幹線をくぐった。

思えば遠くに来たもんだ。

三島駅の車両留置線の先端が見える。

行き過ぎることはないのだろうか？



東海道新幹線との出会い

13時20分

ついに沼津市に入る。



沼津市入口

ここで沼津市の紹介。

『駿河湾に臨む伊豆半島の付け根、愛鷹山の麓に位置する港町である。

東駿河湾地域の中心都市であり沼津都市圏を形成する。

古来、東海道の陸路と海路を繋ぐ交通拠点であり、

江戸時代には沼津城が築かれ東海道の宿場町として栄えるなど

人・物・情報の交流拠点として、この地域の政治経済や商業、

文化の中心的役割を担ってきた。

気候が温暖である他、箱根や伊豆半島や富士山への

観光拠点としても便利な立地条件でもあるため、

保養地としても発達した。

明治時代から 1969 年に亘っては、政財界の著名人が別荘を建てて、

皇室も沼津御用邸を構えたために、「海の有る軽井沢」とも称された。

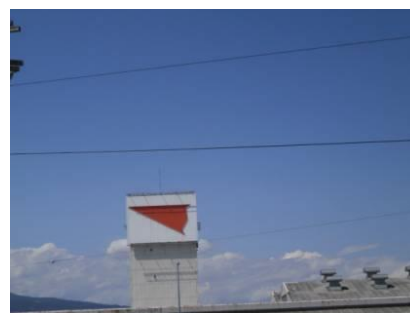
水産業が盛んであり、干物の「鯡の開き」、「雑節」の生産は市ごとの

統計が廃止される 2005 年(平成 17 年)まで日本一の規模であった他、

近年では新鮮な魚介類を求め沼津港を訪れる観光客が増加している。』

13時30分
大岡駅通過。

27景/72景(130° /360°)
本日の最終ポイント
矢崎総業の工場の上に富士山は見えなかった。



27景/72景(130° /360°)

13時55分
いよいよ沼津駅までラストスパート。

14時05分 標高23m
ついに沼津駅着。
総走行距離25km
時間5時間30分(休憩時間含む)
結構高速であった。



沼津駅は青空

まだ今回の旅は終わりではない。

14時20分
沼津登山東海バスに乗る。

14時35分
我入道でバスを降りる。

小生が一番尊敬している小説家・芹沢光治良先生に
会いに来たのだ。
亡くなられて20年。
生前からの全記録が、ここにある芹沢光治良記念館
に残され、公開されている。

小生、18年前から文学会の会員になって毎年この地を
訪れて先生にお会いしにきていた。
文学会が無くなって四年、すっかり御無沙汰してしまった。



芹沢光治良記念館入口



芹沢光治良記念館

先生はやさしく迎えて下さった。

『芹沢 光治良 1896年(明治29年)5月4日～
1993年(平成5年)3月23日)は日本の小説家。
静岡県沼津市名誉市民。』

現在日本ではあまり知られていない作家であるが、
海外ではフランスを中心としてヨーロッパで評価が高く、
代表作『巴里に死す』、『人間の運命』や『神の微笑』は
ノーベル文学賞候補に挙げられた。

また自身もノーベル文学賞の選考委員を務めたこともある。
晩年には「神シリーズ」と呼ばれる、神を題材にした一連の作品で
独特な神秘的世界を描いた。』



芹沢光治良先生

少し歩いて、我入道海岸に立つ。
海は太陽の光を受けてきらきら輝いていた



小説『人間の運命』より

『空が真っ青なのに、富士山頂の白雪が西風に吹きとばされるのか、
白い水けむりが右になびいて、すごい声で、元気をだせと、
僕に話しているような気がした。
僕はそれを見て元気を出した。』

生誕百年記念 『芹沢光治良と沼津 静岡新聞社』より

『芹沢にとって富士山は特別な山である。
それは逆境に直面したとき、死を考えたとき、
惣然と目の前に姿を表し、芹沢を励ますのである。』

.....

精神的に孤独に育った芹沢にとって、刻々と姿を変える
富士の威容は、無言の対話の相手であり、魂を慰めるものであり、
生活苦や精神の苦痛から、己を浄化してくれる存在であった。

.....

苦しい現実の生活から頭を上げれば、そこにはいつも
富士があるという構図に、芹沢の強靱な精神性の源が
ありそうだ。』

碑文

『死とたたかいし
わかき日々
われを鼓舞せし
富岳よ 海よ
げにふるさとは
ありがたきかな
八十四歳 光治良』



富士と海と芹沢光治良先生。
小生、空を見上げて涙をこらえた。

15時35分
沼津駅行バスに乗る。

折笠：先生、僕は今、元気がありません。
今日、静岡に入って一度も富士の姿を見られませんでした。
何ごとも思い通りにうまくいくとは思っていないし、
ましてや自然が自分の意志によって動くとは思っていません。
しかし、十分な計画と準備と想いと願いを持ってやって来たのに
誠に残念です。

先生：富士の姿は見えなくても、そこには富士は実在します。

折笠：……

先生：ものごとを目で見える部分だけで決めてはいけません。
ここでみることが大切なのです。

沼津駅に向かうバスの中、もしかすると思い一番前に座った。

と、一瞬、雲の間に富士の姿がみえた。

これは、現実なのか、先生がみせてくれたのか、ここでみえたのか。
今となってはわからない。

沼津駅についた時は富士の姿はなかった。

まだまだ、修行の旅は続く。

16時19分

沼津駅。

熱海行電車に乗る。中はたいへん混んでいた。

三島、函南と続き、ながいトンネルを抜け熱海に着いた。

温泉に入っていきたい気分。



沼津駅構内

16時50分

快速アクティー東京行に乗り換え。

おっと直列シート(通勤電車のシートレイアウト)車、これじゃ飲めない。

後二両に対列シート(旅行タイプシートレイアウト)車を見つける。

太平洋の青い雄大な海を見ながら、氷結レモンとチーズ鱈。

熱海、湯河原、真鶴と粋な名前が続く。

あっという間に茅ヶ崎着。



青い湘南の海

17時50分

相模線八王子行に乗る。

すげ〜便利。

直列シートに座る。これじゃ飲めない？

あれ〜、手にはサントリーハイボール缶。まっいいじゃないすか。

西に沈む夕陽に照らされながら相模線電車は八王子を目指す。

途中、寒川、社家、厚木、海老名、橋本とこれまた粋な所を通る。

あっという間に八王子。

18時55分

中央線河口湖行に乗る。

大月まで直通、これまた便利。さすがに飲めない。

ぐっすり気を失っていたら、いつの間にか大月着。

その後、ビッグボーイで家内に草鞋ハンバーグをご馳走。

めがねと顔が鉄板の油だらけになって帰宅。

こうして、充実した一日は終わった。

富士山駅までの鉄道の旅、御殿場駅までのバスの旅、
御殿場線沿線高原風景の中の徒歩の旅、
途中静岡の富士の姿を待ち続けたこと、
芹沢先生との再会、我入道の海の経験、
そして沼津から大月までの鉄道の旅などなど。

今回の最大の収穫は、芹沢先生と再会后、バスの中から見えた富士の姿である。

人生、思い通りにはいかないものだ！